



主に建設機械や林業・農業用機械のレンタル・修理などを行う喜多機械産業。海外に事業展開し、水処理事業や太陽光発電に取り組むほか、スポーツ事業にも進出している。

道路や橋、学校、病院……生活基盤に関わる土木工事。『喜多機械産業株式会社』では、約95年の間に培ってきた建設機械や資材の販売・レンタル・修理のノウハウを活かし、地域の建築・土木事業者たちを全面的にサポートしている。「社名に『機械』と付いているけど、機械屋さんではなく、困っている人の悩みを解決して喜んでもらう仕事です」。そう話すのは、社長の喜多真一さんだ。

喜多さんは、前社長から会社を引き継ぐ前に建設機械のレンタルを行う大手企業に勤めていた。刺激を与えてくれる仲間や指導者と出会い、やればやるほど結果がでる仕事にやりがいを感じた。二年経ったころ、長年にわたり会社を支えてきた役員がいる間に想いを引き継いでほしい、と連絡を受けたことを機に退職し、社長室付に就任。「当時は結果を残そうと経費削減や売上アップのことしか見えておらず、会社と歯車がかみ合っていなかった」と言う。会社の経営理念である「顧客、仕入先に満足される誠実な仕事をする」や「社員の豊かな生活の実現に努力する」を理解するきつ

喜多真一

「笑顔にあふれ
選ばれ続ける会社でありたい」
喜多機械産業株式会社

働くこと。
生きること。



植物好きな喜多さんの趣味があふれるリフレッシュルーム。喜多さんのフランクな話に若手からベテランスタッフまで笑顔がこぼれる。

喜多さんが考える 喜多機械産業って こんなところ。



遊び心と自由な発想を歓迎

常識に縛られないビジネスアイデアに期待を寄せています。例えば [BULLBOX]。取扱商品のトレーニング機器と当社製造のユニットハウスを組み合わせで小規模ジムにするという発案により、取引先がスポーツチームだけでなく、福利厚生として企業にまで広がりました。“出る杭でありまくれ”くらいの大胆な発想と個性を大事にしています。

喜多機械産業株式会社 [創業1926年]

事業内容 土木建設建築関連商品や太陽光発電システムなどの販売、レンタル、製造、修理

tel.088-631-9266

徳島市庄町3-16

求人情報はこちら→



多様な働き方を応援

会社にとってプラスになるならと、服装や仕事スタイルは“責任”を伴ったうえで自由を認めています。また、仕事上で挑戦したいことがあれば、ほとんど許可を出しています。本社3階のリフレッシュルームは、雑談や商談ができて、みんなで集まりたいと思える空間にしました。



社員ファーストを念頭に

完全週休2日制。男女ともに育休の取得がOKで、取得率は女性100%、男性でも50%以上なんです。また、社内では「休日の楽しかった思い出」をテーマにフォトコンテストを定期開催しており、社長賞などを作って金一封を贈っています。社員同士のコミュニケーションが向上するきっかけにもなっていますよ。



休日は仕事を持ち込まず、ランチしたり、公園で遊んだりして家族4人と過ごす喜多さん。

かけとなったのは、海外で水処理や小水力発電のプラント設置に取り組んだこと。フィリピンやミャンマーなどの電気が通っていない地域に住む人々の暮らしを豊かにするため、滝の水で電力をつくり、電気や飲み水を供給する機械を運んで設置する事業だった。5年の歳月をかけたこの仕事は、現地の人々を喜ばせ、その姿を見たことで「本気で仕事をする楽しさとは、誰かのために何かをして喜んでもらうことなんだ」と感じた。この経験は自然環境や地球の未来、そして社員たちと真摯に向き合うこと

につながったという。
「迷った時、基準にするのは社員が喜ぶかどうか」と、喜多さん。社員の生活が充実すれば、会社にもプラスになると考えている。技術職は「この人にしかできないから」と個人の仕事量が偏る傾向にある。そこで、社員のスキルマップをつくってスキルを見える化し、レベルのボトムアップを図ったことで属人化は解消され、時間外労働を軽減させた。また、水曜は「はよ帰らなあかんデー」、土曜は「テイクオフサタデー」という名前を付けて、労働と休養のメリハリを意識づけた。喜多さん自身も仕事とプライベートの時間の「区切り」を心がける。休日は趣味のサーフィンをし、好きな家族との時間も大事にしている。その結果、職場満足度アンケートでは社員の63パーセントが「最高」と評価。福利厚生の充実と「挑戦することを歓迎してくれる」ことに好評を得た。「もっと学びたい」という声も多数あがっており、学びの機会を増やしていきたいと意気込み、2030年には満足度100パーセントを目標に掲げている。

働くこと。
生きること。



休日の早朝は海へ出かけてサーフィン。波があれば平日もサーフィンしてから出社時間までに出動する。「多くの人に徳島の豊かさに気づいてほしい。」